

地域栄養の実践と能登半島被災の経験 ～地域栄養拠点と歯科の連携から できた活動・災害時とその後～

2025. 3.5

チームKYE栄養相談室
管理栄養士 橋本 良子



2024. 1. 1 PM4:10

3



石川県ホームページより
<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/saigai/2024090oame-higai.html>

5



6



石川県栄養士会の活動報告より



➤ 震災対応にかかる背景

日本栄養士会災害支援チーム（JDA-DAT）の活動 石川県と石川県栄養士会との災害協定

➤ 事務対応

発災当初の事務対応における主な課題とその対策

➤ 1.5次避難所での活動

いしかわ総合スポーツセンターでの栄養支援の概要

➤ 奥能登地区での支援の実際

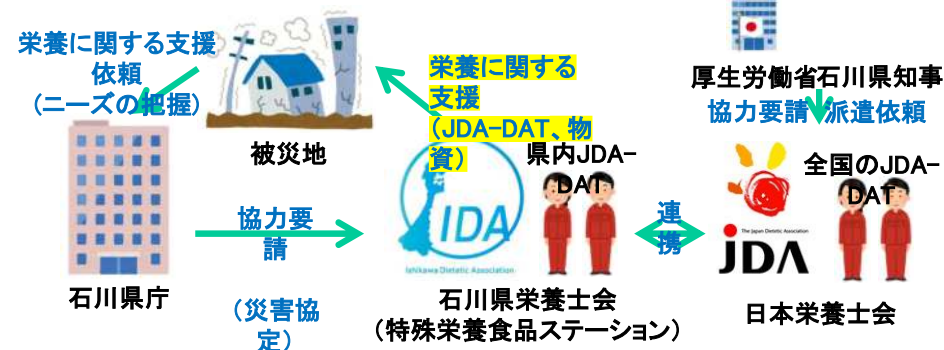
各市町での活動やアレルギー対応など

石川県栄養士会 徳丸孝聡 理事 作成 資料

石川県との災害協定に基づき活動を行った

災害時の医療救護等に関する協定書（平成29年6月30日締結）

第2条 2 甲（石川県）は、必要とみとめるときは、乙（石川県栄養士会）に対し、（中略）協力について要請することができるものとする。



震災発生から栄養支援開始までの流れ

令和6年1月1日 16:10 能登半島地震発生

1月2日

- ・ 石川県健康推進課、厚生労働省健康課栄養指導室、JDA-DAT先遣隊、石川県栄養士会が協議
- ・ (公社)日本栄養士会災害対策本部 設置
- ・ (公社)石川県栄養士会災害対策本部 設置



1月3日

- ・ 金沢市内の石川県栄養士会事務局内および七尾市内の栄養ケア・ステーション内に特殊栄養食品ステーション設置(乳幼児、高齢者、病者など要配慮者向け)

1月6日

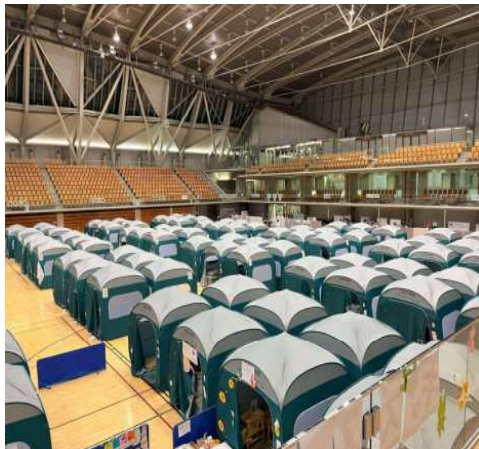
- ・ JDA-DAT(三重県)第1陣が石川県栄養士会に到着
- ・ 七尾市の特殊栄養食品ステーションへの物資移送開始(本格的な支援活動スタート)

栄養士会による主な支援内容

1. 嚥下調整食やアレルギー対応食品等の特殊栄養食品の提供(プル型支援)
2. 炊き出し献立の栄養管理や支援物資の活用等に関する助言
3. 衛生管理指導
4. 栄養相談・栄養評価(啓発資料の配布など)
5. 1.5次避難所での食事提供支援



1. 5次避難所での食事提供支援



- ・ 2次避難所入所までに起きうる災害関連死等の防止を目的に1月8日に1.5次避難所が開設
- ・ 開設後、能登地区の高齢者施設入居者が1.5次避難所への集団入所が決定したために1.5次避難所内に一時待機のステーションが新たに設置
- ・ 県から県栄に一時待機のためステーション入所者への食事提供支援の要請があり活動を開始した

1. 5次避難所での食事提供支援

環境：

- ・ サブアリーナおよびマルチパーパスと呼ばれる2つの体育館に老健レベルを対象とした120床と、特養レベルを対象とした40床が設置されている
- ・ サブアリーナ・マルチパーパスともに水道・排水・加熱機器などではなく、電源も十分ではないため調理はできない

栄養支援：

- ・ 一時待機ステーションの運営はDMATが行い、DMAT医師の指示のもと食事を提供した
- ・ (DMATより調理はしないよう指示があった)
- ・ 2月29日より、多職種と協力して体重等の栄養評価を開始した

サブアリーナ



マルチパーパス



事務室



配食サービスを活用し食事の バリエーションを増やした



スポーツセンターでの 食事提供を経験して・・・

- ・ 1.5次避難所の栄養支援は、顔の見える関係性にあるフリーランス管理栄養士が主体となったため運営体制が維持できた
- ・ 栄養評価はもとより、食数管理、衛生指導・管理など、管理栄養士の基礎的なスキルの知識と実践経験が重要となる
- ・ ディスポのトレイなど入手が困難な備品は、近隣施設の在庫情報が重要となる
- ・ 器ごと配膳できる嚥下調整食品は利便性が高かった



能登での支援活動は・・・



震災発生から栄養支援開始まで

能登半島地震発生から2日後・・・

1月3日

- ・ JDA-DAT先遣隊と石川県栄養士会の指導で
認定栄養ケア・ステーション チームKYE栄養相談に
特殊栄養食品ステーション（乳幼児、高齢者、病者
など要配慮者向け食品の供給を行う拠点）設置

1月6日

- ・ JDA-DAT(三重県)第1陣が石川県栄養士会到着
七尾市の特殊栄養食品 ステーションへの物資移送等
開始（→本格的な支援活動スタート）

特殊栄養食品ステーション

特殊栄養食品ステーションは、災害時において、要配慮者が必要とする特殊栄養食品（母乳代替食品（粉ミルク）、液体ミルク）、離乳食、低たんぱく質食品、アレルギー除去食品、濃厚流動食、（経腸栄養剤）、介護食、嚥下困難者用食品、とろみ調整用食品等）を管理栄養士が関わり、適切に提供する。物資の調達、在庫管理、配送調整等を行う拠点として被災地に設置（被災地の状況によりサテライトの設置も含む）するものです。

これは、2018年の熊本地震より行政と連携し、本格的な体制を整えて稼働させ、熊本地震以降の支援活動において、特殊栄養食品ステーションの設置は必須となっており、災害発生時の厚生労働省から日本栄養士会への協力依頼文書の中にも特殊栄養食品ステーションの設置は明記されています。

現在では、いち早く特殊栄養食品ステーションを設置するため、香都道府県栄養士会事務局に一部備品として配備し、迅速な対応が行える体制を整えました。

特殊栄養食品ステーションの取組み

●避難所等の掲示例



●都道府県栄養士会の備蓄例



●熊本地震の例

（プッシュ型支援）



七尾の拠点としての役割

- JDA-DAT・支援者の受け入れ
- 宿泊所の準備と人数調整
- 道路状況の確認と時間調整
- 食事とトイレの情報提供
- 物資の準備と運搬状況の確認
- 支援終了時、出発確認（駐車券サポート等）
- ・・・など

七尾拠点・栄養ケアステーションで打ち合わせ （JDA-DAT号の運行について）



物資を積み込み、七尾拠点から出発



時には DMATが搬送



1/27 珠洲市でのJDA-DAT支援活動

～避難所での栄養アセスメント及び支援物資輸送～

- ・ 活動担当: 岐阜県栄養士会 2名、石川県栄養士会 2名 計4名
(2台のJDA-DAT号で 金沢→七尾→珠洲市へ)
- ・ 支 援 先 : 珠洲市健康増進センター本部より避難所 14ヶ所
- ・ 支援物資: 珠洲市から依頼があった特殊栄養食品
(濃厚流動食、やわらか食、微量栄養素強化飲料、
アレルギー対応食等)

広域避難所の珠洲市立緑丘中学校へ
およそ100人の方が体育館で避難生活



体育館には多くの
支援物資が保管されていた

他県の行政の方が
在庫管理等の業務
支援を行っていた

栄養士会支援物資も
運んでくださった



A 避難所

S市、震源地から数キロ圏内のJ地区

- ほとんどの家屋は地震と津波で全壊～半壊
- 地区の集会所に十数世帯が共同生活
- 発災14日目、電気とガスは復旧
- 水と支援物資、食料あり
- 1食は自衛隊の炊き出し



自衛隊による炊き出し



B 避難所



指定避難所

令和6年2月9日 現在

- ・避難者79名
- ・生活水 有
- ・調理場 無
- ・炊き出し定期的に有
- ・外部ボランティア有
- ・昼食は支援物資から自由にとれる方式



3つの食品群に食品振り分け



自由に食品を持っていけるコーナー → 3つの食品群別に物資の振り分け



赤・黄色の食品群が多く、



緑の食品がほとんどない…

状況・結果・課題

2024年2月

- ・ 支援物資の在庫は、主食になるものがほとんどで量が過剰な状態
- ・ たんぱく質源は缶詰（焼き鳥、鰯、鯖 等）食塩含有量が多いかも。
- ・ 野菜ジュースは少しはあるものの、どの避難所も十分ではない。
- ・ 便秘気味を訴える方あり。野菜、果物、牛乳・乳製品、大豆製品の要望が多かった。
- ・ 菓子類は喜ばれるので、小豆、大麦などのレトルト品、果物の缶詰類 ビタミン・ミネラルが補給できる飲料やゼリー類を用意できればよい。
- ・ 避難生活が長期になっているため、栄養アセスメント行う必要性
- ・ 体重計、ふくらはぎ周囲長スケールなどを持参するとよいと思う。

3月中旬

珠洲市 健康増進センター 特殊栄養食品ステーション

- ・ 濃厚流動食
- ・ やわらか食品
- ・ アレルギー対応食品



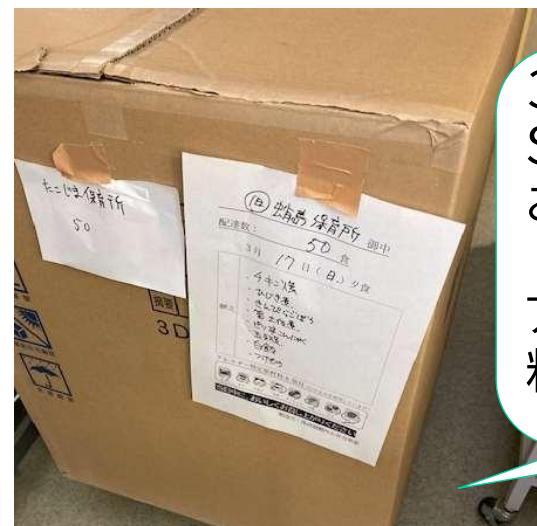
珠洲市飲食店組合が健康増進センター調理室で
500食～1000食の弁当（夕食）を作り
避難所十数か所に配達



アレルギー特定原
材料の表示

適量を！

本日中に食べて！



3月17日
S市 飲食店組合の
お弁当に・・・

アレルギー特定原材
料8品目の表示あり

JDA-DATメンバーが 時には炊き出しも



避難所の食事 (3月頃には)



仮設住宅と集会所完成



仮設住宅への訪問を開始



仮設住宅の住民支援

各市町で保健師・栄養士によるスクリーニング
アセスメントが開始され、要支援者をサポート



今の食事は大丈夫？

食品摂取の多様性スコア
(Dietary Variety Score: DVS)

最近1週間のうち、10種類の食品をほぼ毎日食べていますか？
〔ほぼ毎日食べる〕1点〔そうでない〕0点で、合計点を出します。
10点満点で7点以上が理想とされています。

ほぼ毎日食べる…1点 | そうでない…0点

① 肉	点	⑥ 緑黄色野菜	点
② 魚介類	点	⑦ 海藻類	点
③ 卵	点	⑧ いも	点
④ 大豆・大豆製品	点	⑨ 果物	点
⑤ 牛乳・乳製品	点	⑩ 油を使った料理	点

あなたの点数は？ 7点以上が理想！ 10点

出典：厚生労働省、地域食生活実態調査における食品摂取の多様性と食生活機能低下の関連、日本公衆衛生雑誌 2003;50 (12) (1197-1243) より作成
図の提供：東京都健康長寿医療センター研究所（研究員二名、地域食生活実態調査における栄養の特性と課題、地域高齢者等の健康支援を促進する肥満事業の
栄養管理の取り組み報告書、2016）より

- ・ 身長
- ・ 体重
- ・ BMI
- ・ 握力
- ・ ふくらはぎ周囲長
- ・ これらを測定して
- ・ 栄養状態を確認し
- ・ 栄養指導を行っています

被災地の支援事業では新たに

輪島市・珠洲市・七尾市

能登町・穴水町・志賀町で…

石川県歯科医師会とともに

石川県栄養士会が仮設住宅の

集会所で口腔環境と食生活相談を実施

食力の会・チームKYE栄養相談室の支援



その他の栄養相談室の支援

◎栄養相談室に届けられた支援食品の配布

アレルギー対応食品

柔らか食材

ビーガン食など



認定栄養ケアステーション

チームKYE栄養相談室

(健康・余暇・栄養を考える)

◎これからの食生活を支える場所



地域の問題点を把握したうえで活動
食力の会とともに、月に1回の活動で
多職種連携での支援を行う！！

各市町の要望に応じた食事支援

市町によっていろいろな事情が！

思い描く支援と必要な支援の違い
(寄り添う姿勢が大事！)

今の課題をどう解決？

- ・なかなか将来の生活について希望を持ってない
- ・長い避難生活や仮設住宅の生活になじめない

◎自立支援には多くの課題が！

- ①高齢者の一人暮らしで意欲をなくした
- ②体力的に食事を作ることができない
- ③周囲と孤立していて、精神的に不安定
- ④体が不自由で買い物に行けない
- ⑤買い物に行きたいが店が遠方で、手段がない
- ⑥仮設での生活にいつまでも慣れない

指定避難所と自主避難所

◎指定避難所は危険性がなくなるまで、長期の滞在が可能で、市町からの公的な支援がある

◎自主避難所は一時的に解放される避難場所
公的な支援はないので自助・共助での運営

※今回は自主避難所が多く開設された
地理的な要因や個人的事情が要因か？

これからも・・・

どんな環境にあっても
食べることをあきらめない！

そのためにできることを
多職種でお手伝い！！

ご清聴ありがとうございました！

